



受け継ぎ、備え、未来へつなぐ2月

2月は、これまで受け継がれてきたものに目を向けながら、未来へとつなぐ学びを重ねた1か月となりました。森を守ること、歴史を大切にすること、そして命を守ること。子どもたちは体験を通して、その意味を深く考える時間を過ごしました。

未来へつなぐ森 — 6年生森林学習と卒業記念植樹 —

2月12日、6年生は本校山林顧問の長哲也さんを講師に迎え、学校林の歴史と森の役割について学びました。

森と海はつながっていること、木を育てることが未来の環境を守ることにつながることを、具体例を交えながら教えていただきました。

森では、落ち葉を微生物が分解し、その養分を虫が食べ、小鳥が集まります。命は循環し、土にしみ込んだ養分は川へ流れ、やがて海へ届きます。森林は飲み水を育み、二酸化炭素を吸収するなど、地球環境を守る重要な役割を担っています。

また、第7代校長 高原力太郎先生が「50年後に豊かな高瀬小になるように」との願いを込め、明治44年から17年の歳月をかけて造林に取り組まれた歴史についても学びました。学校林は、地域や保護者の協力のもと受け継がれ、その収益は校舎建築など現在の教育環境を支えています。

その学びを受け、15日には育友会山林顧問、農林部の皆様、保護者の皆様のご協力のもと、美濃山林で卒業記念植樹を行いました。カワゾザクラ2本とイロハカエデ1本を、自分たちの手で植えました。土を掘り、杭を打ち込む作業を通して、山林を身近に感じる時間となりました。

山林顧問さんへのお礼の言葉の中で稲葉玲華さんは、「森に入って本当に気持ちよかった。この環境を守るために、今できることを考えていきたい」と話しました。

学んだことを自分の生活と結び付けようとする姿に、6年間の成長を感じました。



命を守る力を育てる — 地震・火災避難訓練 —

2月20日、地震と火災を想定した避難訓練を実施しました。放送の合図で机の下に身を隠し、揺れがおさまった後は速やかに運動場へ避難しました。一人一人が落ち着いて行動し、真剣な表情が印象的でした。

講師として、本校学校運営協議会委員であり元日田玖珠広域消防組合消防監の金子徹さんをお招きしました。

金子氏は、このように語られました。

「これまで、たくさんの火事を消してきました。火には勝ってきました。しかし、自然の力には勝てません。だからこそ、『逃げる』と『備える』を覚えてほしいのです。」

その言葉には、長年現場に立ち続けた方ならではの重みがありました。災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、日頃から備え、自分の命を守る行動が取れるようにすることが大切です。学校では、これからも命を守る力を育てていきます。



空から見つめた高瀬小学校

1月19日に行ったドローン撮影の写真と動画が学校に届きました。目の高さで飛んでいた機体が、あっという間に上空へと上昇していく様子に、子どもたちからは驚きの声が上がりました。映像には、校舎や運動場だけでなく、美濃台地や周囲の町並みまでが広がっています。

空から眺めると、高瀬小学校が地域の中で大切に支えられながら存在していることがよくわかります。森も、歴史も、命を守る取組も、すべてはこの地域の中で息づいています。

空からの視点は、私たちの学校をあらためて見つめ直す機会となりました。



写真と動画は学校ホームページ「学校案内(空からの高瀬小)」からご覧いただけます。

半世紀を見守った旧校旗

2月17日、本校正面玄関に旧校旗を額装し掲示しました。

約50年にわたり、運動会や観光祭などで子どもたちを見守ってきた校旗です。刻まれた風合いの中には、本校の歩みと多くの方々の思いが息づいています。

設置にあたっては、地元の高瀬工務店様にご協力いただきました。安全面に十分配慮しながら丁寧に仕上げてくださいましたことに、心より感謝申し上げます。

歴史を大切にすることは、未来を大切にすることでもあります。正面玄関を通るたびに、本校の長い歩みに思いを寄せてもらえればと思います。



未来へ向けて

2月は、森・命・歴史という三つの学びが重なり合った月でした。受け継がれてきたものに感謝し、自らの行動で未来をつくる。そうした姿を、これからも大切に育ててまいります。多くの方々の支えの中で、子どもたちの学びが成り立っていることをあらためて実感する1か月でした。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。